

# 新基地建設反対名護共同センターニュース

## 屈辱の日から70年。27度線で海上集会



27度付近で行われた海上集会の様子 (しんぶん赤旗・提供)

1952年のサンフランシスコ講和条約の発効から70年目の4月28日、72年の復帰まで沖縄が日本から切り離された象徴である北緯27度線付近で国頭村と鹿児島県与論町は沖縄の復帰を求めた海上集会を行いました。正午前に開かれた海上集会には両町村から21隻の船で約140人が参加、「両町村の心の絆を継承し、交流を深める」との宣言文を読み上げました。沖縄返還を求めて1963年から7年間にわたって行われた海上集会やかがり火が10年ぶりに再現されました。海上集会とかがり火を焚いた両町村では、平和を願う「沖縄を返せ」の熱い歌声が響き渡りました。

「建議書」実現へたたかいたたかひの発展を

### 名護民商が県民大会をオンラインで視聴 「基地のない平和な沖縄を」の原点を学ぶ

名護民主商工会（仲本興真会長）は4月30日、「復帰50年・基地のない平和で誇りある豊かな沖縄をめざすオンライン県民大会～屋良建議書は実現されたのか～」（同実行委員会主催）を同民商会館に6人の役職員が集まり視聴しました。1971年屋良朝苗主席が日本政府に提出した「建議書」作成に関わった琉球政府職員だった平良亀之助さん（写真）や屋良主席の秘書だった石川元平・元沖縄教組委員長らの話に熱心に耳を傾けました。（協力・比嘉末美さん）

### 建議書の実現めざし 闘いを粘り強く

仲本会長は「私を含め全員が、とても感動しました。基地のない平和で豊かな沖縄をめざすたたかひの原点を学んだと思います。この原点を忘れず、今後も現場で粘り強く建議書の実現をめざして闘いを続けます」と話していました。



辺戸岬では、与論島まで光が届けと勢いよくかがり火が焚かれました。（しんぶん赤旗・提供）

## 県民の願いは「米軍基地の整理縮小、日米地位協定の改定」

キャンプ・シユワブゲート前で4月28日、各地島ぐるみ会議から約50人の県民が座り込みました。うるま市島ぐるみ会議の照屋寛之共同代表（沖縄大名誉教授）が「今日、4・28は沖縄にとって日本から切り離された屈辱の日だ。50年前の日本復帰に当たって屋良朝苗主席が建議書を自ら書き「基地のない平和な沖縄」を求めた。しかし、米軍基地の沖縄への集中は変わらず、辺野古新基地建設が強行されている。昨日、国会で沖縄の日本復帰に関する決議案を可決したが、肝心の県民の願いである基地の整理・縮小に触れず、日米地位協定の見直しは削除された。共産党は反対したが他の政党はもつとしっかり対応してほしい」と訴えました。この発言を受け、県民は怒りを込めて「沖縄を返せ」を合唱しました。

### テント村では交流と学習

テント村では参加者の交流が行われ、沖縄市民会議の前川盛治事務局長が「沖縄市長選で森山政和氏は当選できなかったが、前回と比べて得票数で2千票、得票率が5%伸ばし善戦した」と報告しました。元沖縄平和ネットワーク共同代表の村上有慶さんが「軍隊は住民を守らない」のミニ講演を行いました。座り込みに参加した今帰仁村の女性には「とても勉強になり、楽しかった。また参加したい」と話しました。



上の写真は、訴える照屋寛之さん。下は前川さん（右）と村上さん